

授業力の向上に係る校内研修の在り方

— 県内公立学校の校内研修の実態調査（アンケート）の結果から —

「よい授業をしたい」、これは教員なら誰もがもつ思いでしょう。そのためには「授業力を向上させなければならない」と考えている教員も多いはずですが、しかし、この「授業力向上」は一朝一夕に解決できる課題ではありません。今でも多くの学校、教員が日々研鑽に努めているところです。

このような状況の中、調査研究チームでは、これまでに「言語活動の充実」「活用力」をキーワードに思考力・判断力・表現力を育てる授業の在り方を明らかにしてきました。その成果を『授業改善ハンドブック 新授業の窓「授業をつくる16の視点」』（H25.3月発行）にまとめ、全県に提案してきました。また、平成25年度は「教師のコーディネート」の在り方に焦点を当て、めざすべき授業の姿を提案してきました。今年度はこれまでの提案内容を福島県における教員の「授業力の向上」に直接的につなげていくために、校内研修、すなわち授業研究の改善をめざした研究に取り組むことにしました。そこで、まず福島県の校内研修の実態をアンケートにより調査しました。その結果から見てきた課題や改善のポイントを紹介します。

福島県の公立学校の校内授業研究の現状はどうなっていますか

アンケートの結果

調査対象：県内の小・中学校、高等学校、特別支援学校
回答者数：研修主任等(786名) 教諭(3008名)
調査時期：平成26年6月～7月

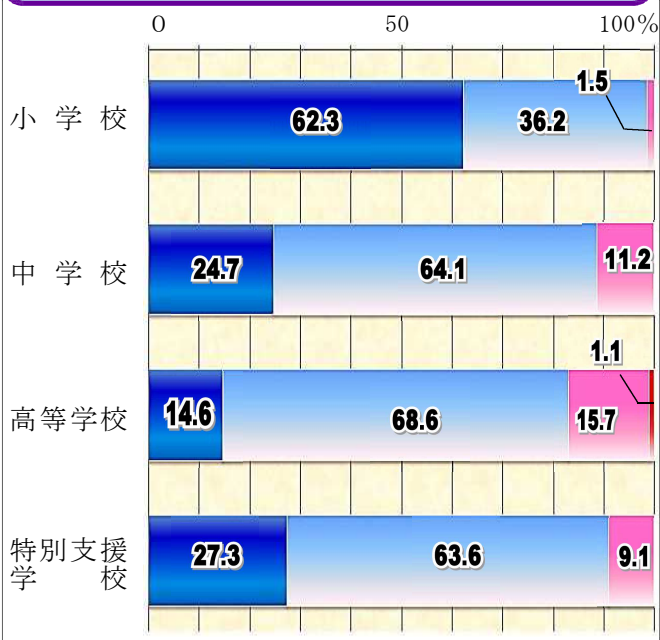
— アンケートの結果から主なものを掲載しました —

授業研究に対する 意欲や課題意識について

■ とても思う ■ やや思う
■ あまり思わない ■ まったく思わない

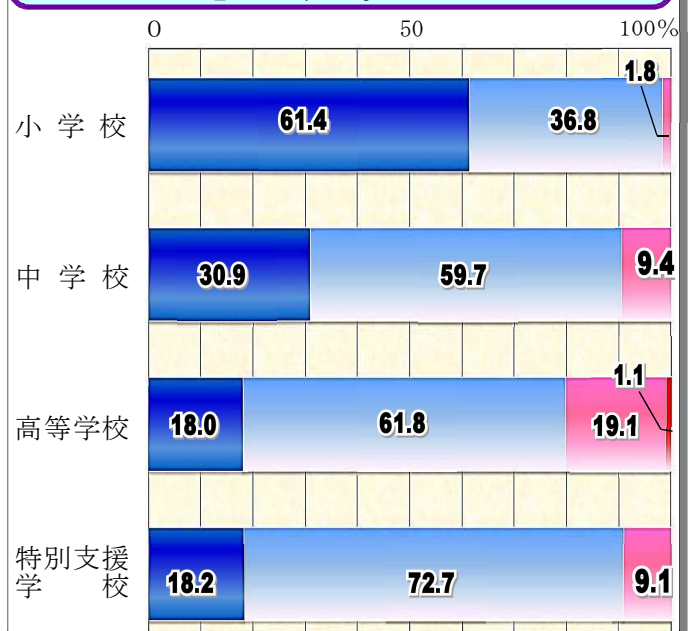
研修主任等

Q 1 あなたの学校の教員は、授業研究に意欲的に取り組んでいたと思いますか。



研修主任等

Q 2 あなたの学校の教員は、参加する授業研究に課題意識をもって取り組んでいたと思いますか。



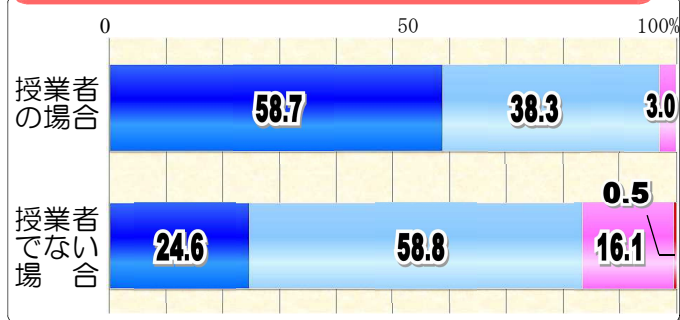
教 諭

Q 3 あなたは、授業研究に意欲的に参加していたと思いますか。



教 諭

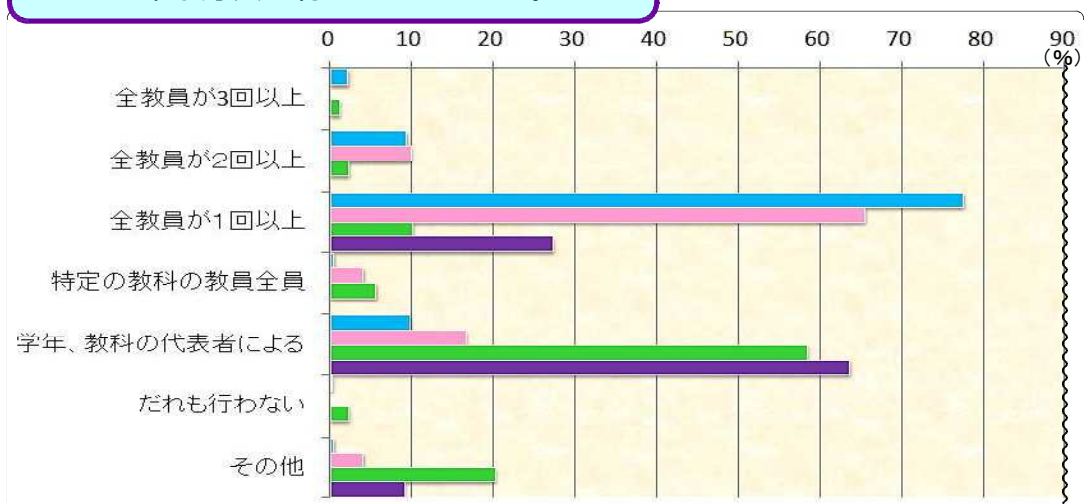
Q 4 あなたは、課題をもって授業研究に取り組んでいたと思いますか。



授業研究会の実際について

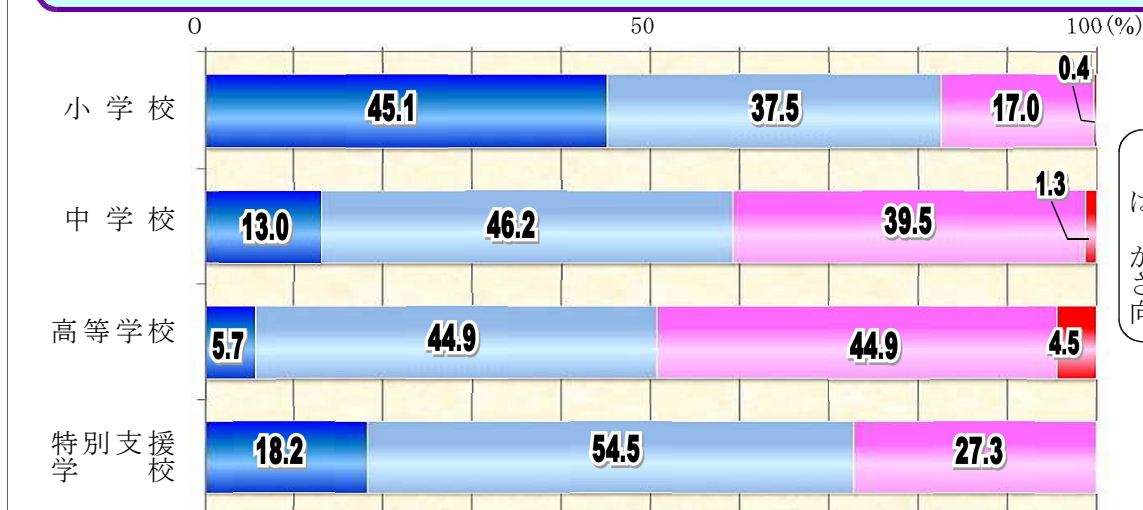
研修主任等

Q 5 あなたの学校では、研究授業をどのような方法で行っていましたか。



研修主任等

Q 6 あなたの学校では、研究授業の事前研究会を重視していたと思いますか。



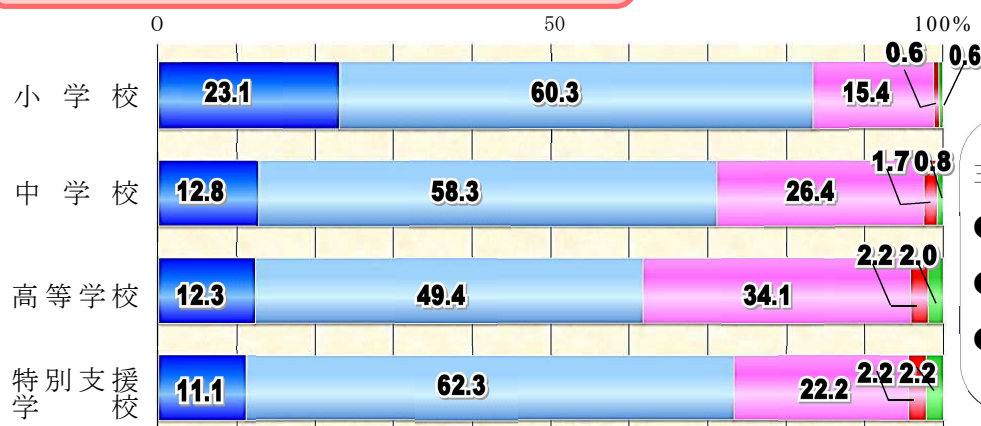
校種により差はありますが、「事前研究会」が必ずしも重視されていない傾向が見られます。



教 諭

Q 7 あなたは、研究授業を積極的に行いたいと思いますか。

■とても思う ■やや思う ■あまり ■まったく ■その他
思わない 思わない



研究授業に消極的な主な理由としては……

- 「授業の準備をする時間がないから。」
- 「精神的な負担が大きすぎるから。」
- 「自分の授業力に自信がないから。」

授業研究における悩みについて

研修主任等

Q 8 授業研究を推進していく中で、どのようなことに困りましたか。



複数回答
 回答者数786名

「時間の確保」が難しく、計画的に進まない状況にあること、そして、少ない時間の中で充実した取組にするために、負担軽減や効率化を図ろうと努力している現状が見られます。また、「全員の参加意欲が高まっているとは言えない」と感じている研修主任も多くいます。



教 諭

Q 9 授業研究に取り組んでいる中で、どのようなことに困りましたか。



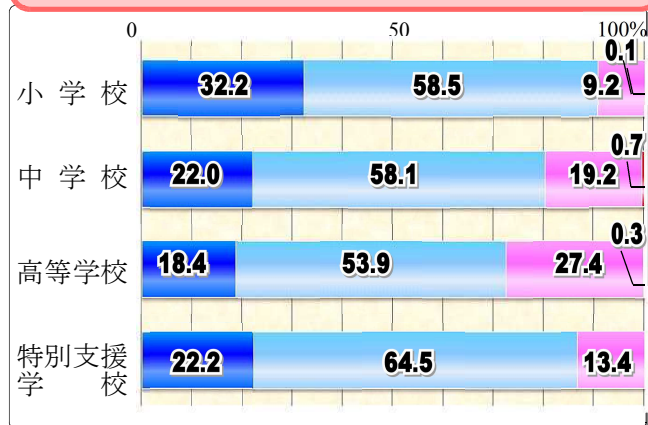
複数回答
 回答者数3008名

多くの教員が、授業に対する準備時間が不足していると感じているようです。一人一人の参加意欲やモチベーションに差がみられ、全員の共通理解のもと、組織的・協働的に取り組まれている状況も見られます。また、学校の研究が個人の授業改善に直接結び付かない現状があることも分かります。

授業力の向上と校内研修のかかわりについて

教 諭

Q10 あなたは、校内研修を自分の授業力向上に役立てていたと思いますか。



教 諭

Q11 あなたは、校内研修や授業研究を日々の授業力向上に結び付けるために、どんな工夫が必要だと思いますか。



授業研究を授業力の向上につなげるにはどうすればよいですか

授業研究の主体はあくまでも教員一人一人です。授業研究に意義を感じ、積極的に学ぼうとする姿勢や態度に支えられてこそ、授業研究が充実したものとなっていきます。しかし、学校現場を取り巻く様々な状況の中で、教員の資質・能力の向上を一人一人の責任に求めたとしても、個々の努力や頑張りには限界もあります。そこで、教員の協働性を生かしながら、校内授業研究の充実を図ることが、個々の教員の資質・能力を高めることにつながると考えます。「校内授業研究」における大切なポイントを提案します。

校内授業研究では、教員一人一人の授業力の向上という視点も大切です。



- ◆ 研究授業や授業研究会を通して、よりよい授業づくりへのヒントを得ることができます。
- ◆ 他の教員の授業を見ることで、自分の授業を子どもの目線で振り返ることができます。
- ◆ 他の教職員に授業を見てもらうことで、新たな気づきを得ることができます。



授業研究会を共に学ぶ場とするために

- ☒ 事前に授業者の意図を理解し、共通の視点をもって参加すること。
→ 参観のポイントを共通理解する事前研究会の実施
- ☒ 授業研究会においては、授業の善し悪しに関する一般論を話し合うのではなく、授業の内側の事実から語ること。
→ 「子どもの具体的な姿」を中核とした話し合い
→ 具体的な改善策の明確化
- ☒ 研究会後は、見いだした課題や改善策を日々の授業や次の授業研究会に取り入れ、生かしていくこと。

授業研究会を日々の授業に生かすために

- ☒ 「日頃実施している授業」の現状把握を行うことにより、問題点や改善したいという思いを共有すること。
→ 『授業をつくる16の視点』の活用
- ☒ 授業者が「改善案」を作成したり、参観者が「自分の授業へ生かしたいこと」をまとめておくなど、授業研究会による学びを言語化・共有化しておくこと。

事前に授業者の意図や工夫を共通理解することで、視点を絞った効率的な授業研究会に改善することができます。

